

消防団員・機能別消防団員

を募集しています

《消防団員》～自分たちのまちは自分たちで守る～

本業を持ちながら、地域の安全と安心を守るために自ら参加し活動する消防団。平常時は、消防操法の訓練や機械器具の点検、操法競技会などを行い、地域の人と親交を深める場にもなっています。

▶主な職務

- ①火災発生時における消火活動 ②大規模災害発生時における災害防御活動・災害警戒活動 ③平常時の年間行事や訓練 など

《機能別消防団員》～昼間の防災力の確保～

元消防吏員や消防団員だった人で、活動できる消防団員が不足しがちな昼間の時間帯の消防活動を補完する機能別消防団員。地域における消防防災力の確保を図ることを目的としており、消防団における年間行事や訓練などには参加しません。

▶主な職務

- ①昼間の火災発生時における消火活動 ②大規模災害発生時における災害防御活動・災害警戒活動 など



▶問い合わせ

本総務課 ☎0287(62)7150



でもなくなってしまったが、地元の建設業者に協力を依頼して砂を分けてもらい、何とか土のうを作ることができた」といい、これも日ごろの付き合いがあったからこそこの臨機応変な対応だった。結局この日は一睡もせずに活動を行い、翌日以降は被害状況の調査や行方不明者の捜索、災害ごみの片付けなど地域のために尽力したという。

水害で尊い命が犠牲となったことに触れ、大野団長は「何とかできなかったのかと悔やむばかり」と話す一方、「あれだけの大きな災害の中、消防団員は一人のけが人もいなかった。日ごろの訓練の成果が出たのかなと思っている」とも。

那須水害の経験から「災害にあった際は、地域の人たちと協力して乗り越えることが大切。那須水害の経験を風化させることなく、いざというときに備えて防災力を強化していきたい」と意気込む大野団長。近年は、女性消防団員が活躍していたり、機能別消防団員を取り入れ消防団員の確保に努めているほか、消防団協力事業所の導入により更なる防災力の強化が図られている。

豊富な経験と確かな技術を持ち合わせた消防団がこのまちにはいる。有事の際は、消防団を中心とした地域の防災力にかかっているのだ。

平成10年8月27日、班長になったばかりの大野団長は先輩の消防団員から連絡を受け、自宅のある野間地区から寺子橋に向かったという。上流から流れてきた流木や家屋の瓦礫が寺子橋に引っかかり流れをせき止めた結果、河川は氾濫。橋が渡れなかったため、黒羽方面から迂回し石田坂地区で被害状況の調査へ。大野団長も土のうを作り、止水活動などをした後、野間地区へ戻り活動することになった。野間地区でも小川の氾濫や家屋・牛舎への浸水、道路も膝ぐらまで冠水するなどの被害があり「地域の人たちと協力して土のうを作り、一人暮らしの高齢者のお宅など助けを必要としている人たちのところに行き、土のう積みなどをした」と振り返る大野団長。

「土のうを作るための砂が市役所

地域を守る消防団

消防団は火災時の消火活動はもとより、災害時における献身的な救助活動や避難誘導活動などのひとつひとつが被災者の心の支えとなる。今回は地域を守るためになくはならない存在である消防団について、那須塩原市消防団の大野勝弘団長に話を聞いた。

地域を守る

消防団協力事業所を募集しています



消防団員の約7割が被雇用者という状況の中、事業所の皆さんの消防団活動へのより一層の理解と協力が必要です。

消防団協力事業所として認定されると地域への社会貢献として広く認められ、事業所の信頼性の向上、イメージアップが図られます。

消防団の活性化、地域防災体制の強化のために、事業所の皆さんの協力をお願いします。

《3つの事業所が認定されました》

6月28日、右記の3つの事業所が消防団協力事業所に認定されました。交付を受けた事業所の代表者は、「緊急時はもちろん、今後さらに事業所内の消防団員数を増やし地域貢献できれば」と意気込みを話してくれました。



○藤光電気工事(埼玉)
○JAなすの塩那営農経済センター(太夫塚3丁目)
○太田建設(塩野沢)

▶問い合わせ

本総務課

☎0287(62)7150

那須水害の経験を生かし、地域防災力の強化を図る



那須塩原市消防団長 大野勝弘氏